令和3年12月14日

社会福祉法人つつじの福祉会
書面による『はぎの郷　2021年度第4回運営推進会議』議事録

社会福祉法人つつじの福祉会　地域密着型小規模特別養護老人ホーム『はぎの郷　2021年度第4回運営推進会議』の開催（開催予定日：令和3年11月29日）に際し、新型コロナウイルス感染防止を第一優先とした書面による開催としたため、令和3年11月29日必着にて、参加予定の方々に対し書面による報告資料を郵送しました。報告内容に対するご意見・確認事項について、令和3年12月6日を期日として募りましたところ、貴重なご意見・確認事項等をいただきました。

以上の書面報告による開催を明らかにするため、ここに本議事録を作成する。

1　書面報告による『はぎの郷　2021年度第4回運営推進会議』を実施した者の氏名

『はぎの郷』　施設長　　宮武　昭彦

2　書面報告による『はぎの郷　2021年度第4回運営推進会議』参加者
・加古川市　高齢者・地域福祉課及び介護保険課　職員
・地域包括支援センターひらおか　職員
・特別養護老人ホームうおずみ　施設長
・つつじ野地区民生委員
・はぎの郷入居者様のご家族

3　「ご意見や確認事項等」について
地域包括支援センターひらおか職員様、特別養護老人ホームうおずみ職員様、入居者様のご家族より2項目につきご意見・ご質問をいただきました。ご意見・ご質問への回答とあわせて添付資料を確認ください。

4　『はぎの郷　2021年度第4回運営推進会議』の開催と閉会

開催日：令和3年11月29日　書面による報告（郵送）をもって開催日とする。
閉会日：令和3年11月29日　（期日：令和3年12月6日）開催日をもって閉会日とみなす。

5　議事録の作成に係る職務を行った者の氏名
『はぎの郷』　施設長　宮武　昭彦

「はぎの郷」2021 年度 第 4 回 運営推進会議　「ご意見や確認事項等」

(1) ご意見（加古川市役所　高齢者・地域福祉課より）

：　ヒヤリハットや事故報告の内容について「対応後の結果」と「改善策」まで報告されてるため、事業所としての再発防止策がよくわかりました。
「ヒヤリハットをみつけよう対策」については、ヒヤリハットを見つけた分だけ改善策を検討することが出来るので、今後も期間を定めて取り組んでいただきたいです。

回答：　ご意見にありがとうございました。
各ユニットでの「ヒヤリハットをみつけよう対策」を事故防止（再発防止も含めて）を高める施策として引き続き実施し、各ユニット会議及び危機管理委員会等を通じて、改善策の検討とその結果の構築をしていき事業所としての事故防止（再発防止）に取り組んでまいります。

(2) ご意見（知見者より）

①　：　ヒヤリハット、事故報告書に記載されていますご利用者のうち、興奮されている状態で他利用者への危害を加える可能性のあるご利用者については、同じ利用者なのでしょうか？

回答：　記載されていますのは同じご利用者様（複数名）のケースでございます。

②　：　おそらく認知症を発症されている方かと思われますが受診等のフォローはどのように対応されているのでしょうか？

回答：　記載されていますのは同じご利用者様（複数名）のケースでは、そのご利用者支援のため認知症ケアチームを発足させ（チーム：当該ユニットの介護主任・介護支援専門員・看護師・栄養士・管理者・本部)、医療の力もかりるケースか？その場合は家族にも現状報告・相談等を行い「認知症専門医」の在籍している病院にて受診等フォローも行っています。

③　：　特段問題とされていない様子ですが他利用者や職員のフォローも必要かと思いますがどのように対応されているのでしょうか？

回答：　認知症ケアチームの発足（チーム：当該ユニットの介護主任・介護支援専門員・看護師・栄養士・管理者・本部）により、当該ユニットでの対応時の課題・他利用者への課題や影響と対応方法の共有、各職員がご利用者の興奮時に不安な事、フォローが必要な内容等も協議しています。

④　：　ヒヤリハット報告、事故報告書はしっかりと記載されていますが、ハインリッヒの法則から考えますと事故報告書の数の割にはヒヤリハット報告が少ないように感じます。実際に少ないのであれば良いのですが、職員が報告書を出すのが面倒だとか怒られると感じて記載されないことがよくあります。当特別養護老人ホームにおいてもヒヤリハット

報告が非常に少ない状態でして、事故委員会にて如何に報告書を記載していくのかを検討しております。デイサービスにおいては積極的に記載するよう働きかけ、1ヶ月間にヒヤリハット報告が60件になり、事故件数も減ってきております。なかなか難しいかとは思いますが職員への働きかけを進めていただければと思います。

回答：　上記でも回答させていただきましたように、事故防止（再発防止も含めて）を高める施策とし各ユニットでの「ヒヤリハットをみつけよう対策」を引き続き実施していきます。報告書は各ユニット会議及び危機管理委員会等を通じて、改善策の検討とその結果の構築をしていき事業所としての事故防止（再発防止）に取り組んでまいります。
また、当事業所で職員に徹底して通達していることの一つに、「事故」は起こさないことはもちろんですが、万が一起きてしまったことを咎めることはないこと。事故を隠すことはあってはならない「大罪」であるということを共有しています。

⑤　：　全国、兵庫県においても新型コロナウィルス感染症の感染拡大は少し落ち着きつつある状態かと思います。施設においても面会の一部解除もされているように思います。
そこで運営推進会議についてですが可能であれば文書による情報提供・報告から会議形式に戻すことを検討されてはいかがなものかと考えます。もちろん今後の感染状況にもよりますが感染対策を施した上で実施してはいかがなものかと思います。
（私見ですが私自身が運営推進委員を拝命しましたが、一度も運営推進会議に参加したことがなく、運営推進委員の皆様とお会いしたことがないもので）

回答：　今後の運営推進会議の開催方法については、全国及び兵庫県での新型コロナウィルス感染症の感染拡大状況（変異株の状況並びに第六波情報）を踏まえながら検討していきます。